

徒然想

今月中旬には、恐ろしい程の大雨が降り続けました。被害にあわれた方には心からお見舞い申し上げます。厚い雨雲が暴れまわったあと、急に輝く太陽が照りつけ始めました。今年も夏が来たのだと、汗を拭きながら実感しています。しかし気のせいでしょうか、最近蝉の声が少なくなっているようにも思います。長い間土の中で暮らし、最後に命を振り絞って偉大な太陽の下で羽をふるわせる蝉たちはどこに行ったのでしょうか。それでも、声の限りに鳴き続ける蝉を見つけたときは、その躍動感あふれるエネルギーに圧倒されます。一方、夏の植物も負けてはいません。太陽を目指して伸びていく向日葵の姿は、じつに力強く活気に満ちています。皆、それぞれに自らの光を目指しているかのようです。水害に泣かされた地域の皆様が、どうかまた笑顔になれますように。そして、一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

TECHNICAL TOPICS KRCの技術情報はこちら

歴史的建造物における3次元情報のデジタル記録保存—横浜松坂屋本館—

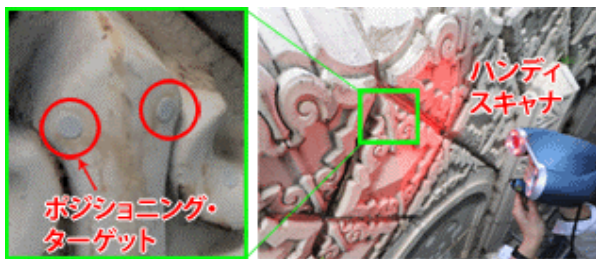
横浜松坂屋本館(RC造 地上7階、地下1階 大正10年竣工)は、ファサードにアール・デコ的なテラコッタ装飾を持つ外部意匠が用いられた、横浜の都市景観上で重要な建築物です。教育者としても建築家としてもわが国の建築の歴史に大きな足跡を残した鈴木禎次の代表作であり、平成16年には横浜市認定歴史的建造物に認定されました。しかし、建物の老朽化に伴い、建物の解体・撤去が決定され、建て替えが行われることとなりました(平成22撤去工事開始)。建て替えにあたっては建物の貴重性に鑑み、外壁の一部を復元する計画となっています。

そこで、当社では横浜松坂屋本館の解体工事に際し、建物全体は3Dレーザ、復元される部位(テラコッタ装飾)数ヶ所は、ハンディスキヤナを用いて3次元計測を行い、今後の保存・復元工事の実施に必要な情報の収集・整理を行いました(調査依頼:(株)竹中工務店)。

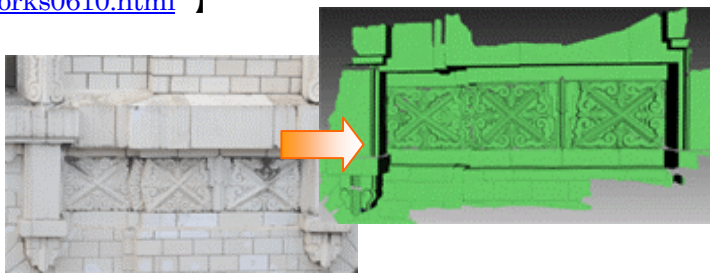
今回テラコッタ装飾において行ったハンディスキヤナ(Revscan)による3次元計測は、0.5mm程度の精度で複雑な形状を取得できる方法です。テラコッタ装飾の各パネルは、建て替えにおいて復元されるため、樹脂を用い型取りする計画となっていますが、パネル間同士の取り合いが明確でないため、その取り合いを詳細に記録保存するために今回の手法が用いられました。計測は、まずポジショニング・ターゲットを対象物に貼り、ターゲットが最低4点程度入るようにハンディスキヤナをゆっくりと移動させながら行っていきます。取得データはPC上でリアルタイムに確認できるので、計測忘れが発生しません。下記データをご覧になれば、詳細に形状データが取得できていることが分かります。

さいごに、今回行ったハンディスキヤナによる詳細形状計測は、建築物で行われた事例としては、先進的な取り組みです。今後、歴史的建造物を保存・利活用する上で、有効な試みと言えるでしょう。

【 詳細はこちら: <http://www.krcnet.co.jp/works/works0610.html> 】



ハンディスキヤナ計測状況



ハンディスキヤナによるテラコッタ装飾取得データ



解体前の横浜松坂屋本館



建物全体の3Dレーザ計測

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせは、

電子メール: krc@krcnet.co.jp HP: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm> で承っております。